

佳作

## 元気はじろじおじちゃん

鹿児島県 鹿児島市立原良小学校四年 吉村 胡音

「いらっしゃい。」

二階の部屋へ入るといつもニコニコ笑顔でわたしをむかえてくれる、おじいちゃん。二世帯住にせたいじゅうたぐの二階におじいちゃんおばあちゃん、三階にわたした達の家族が住んでいるので、わたしはよくおじいちゃんに会いに行きます。

学校の話聞いてくれたり、おじいちゃんが大人の学校と言っているケアの友達の話などをしてくれてとても楽しいです。

十一年前、わたしがまだ生まれる前に、自えい業で和が子作りをしていたおじいちゃんはとつ然頭の血管がやぶれてたおれてしまいました。それから体の半分がふ自由になってつえを使わなければ、歩くのがむずかしくなりました。

わたしはおじいちゃんが、元気に一人で歩くすが

たを見た事はないけど、写真を見てみるとおじいちゃんは色んな事にチャレンジしていた事が分かりました。

マラソン大会に出たり、手先も器用なのでいろんな物づくりもしていたようです。今でもたまには自由な左手をささえにして、元気に動く右手でほんさいを作ったり、山から木を切ってきて部屋かざりや自分のつえを作ったりして、とてもがんばっています。

でもそんなおじいちゃんも、ふだんはほとんど部屋で横になっています。本当は毎日とても体がしびれていたのだそうです。

体がきつくてケアにも行きたくないなあ、という日もあるんだと、おばあちゃんに聞きました。わたしといる時にはニコニコと元気いっぱい話をしてきてくれるおじいちゃんは、がまん強くてすごいなあと思います。

ケアから帰ってきたおじいちゃんは、ケアでの一日の出来事を楽しそうに、いっぱいおばあちゃんに話しています。おばあちゃんもうれしそうに笑顔で聞いてあげます。

行く前は少しおっくうそうにしているても、帰って

来た時のおじいちゃんの顔は、とても明るく元気よく見えます。きっとお友達と楽しい事がいっぱいあったのだと思います。

十一年前まで和が子しょく人としていそがしくはたらっていたのに、とつ然仕事もできなくなっても、一人ではおふるも入れないふ自由な体になっても、おじいちゃんが元気に笑顔でいられるのは、きっとケアなどで知り合ったお友達のおかげだったり、そこではたらく先生方はげましやささえや、何よりも毎日そばにいるおばあちゃんが、ふ自由な左手や左足になって一生けん命よりそってわいてくれるからなんだと思います。

わたしにとっておじいちゃんは何でもできる一人のりっぱな人間です。これからおじいちゃんが元気に生きている間は、関わる周りの人達がやさしく手を差しのべたり、声をかけてもらいながら一日でも一時間でもおじいちゃんが体のいたみを忘れて、元気な笑顔でいられますようにと、わたしは願います。